

新 人 類 論

なにやら不気味な胎動が起こっている。平和な国の新しい人種。新人類。彼らは安穩なる日々を否定するのではなく、時代のスイートを利用し、温室の人工的な光を浴びながら、非凡なる表現のサムシングを誕生させようとしている。新鮮なエネルギーが噴出しながら時代を刺激する。その源流に彼はいる。彼らの手にかかれば、時代なんかパツと変わる。

X型人間は1960年代を待っている。

時間がすぎれば、いつかはオールドウェーブ。時代を超えていく新しさというのは、実は人のエネルギー。自分を、自分の言葉で表現するエネルギーの大切さを、クリエイティブしてほしい。

野中ともよ

世界を飛び回った経験を持つ野中さんが、新人類に対して独自の視点から、反論を試みた『新人類の国際論』。

彼女はホテルのロビーで待っていてくれた。友人の出版記念パーティに出席する途中、時間をさいていただいたのだ。ニューキャスターとして活躍する彼女にとって、まのびした時間ほどムダなものはない。さっそくインタビュを開始した。ニューウェーブあるいは新人類という表現が、あちこちで使われ、少々手垢がつきはじめているけれど、あなたにとっての新人類とは、どんな人なのですか。彼女が持ち時間の少ないことを知

ったカメラマンが、こちらの質問と同時にシャッターを切りはじめた。ロビーの喧騒とモータードライブの唸る音。そんなジャーナリストイックな雰囲気、彼女にはとてもよく似合う。そして言葉を慎重に選びながら、語りはじめた。

■ 流行は繰り返すといいますが、ちょうど10年おきくらいに。私はニューウェーブという言葉を知り、すぐヌーベルバーグを連想してしまいます。というのは、何か新しいことは、どの時代にも起きてきたし、事実ヌーベル・バーグに代表されるように、「新しいこと」はあったんです。

それまでにない既製の概念を打ち破る、

新しいものや事象というものが。しかし、いま新しくニューウェーブであっても、時間がたてばオールドウェーブになるし。だから、新しいからニューウェーブではないと私は思う。それではほんとうの意味のニューウェーブ、あるいは新人類というのとは何かというと、いわゆるカテゴリー化するのは好まない。自分だけの世界を持っていて、それを貫きとおすパワ―のある、時代に左右されない人々をさすんじゃないでしょうか。

を前もって計算してきたと思うんです。だけど、さっき話したような人たちは、まったく評価など気にしない。とにかく自分の世界を表現することが、すべてなんです。自分らしさを大切に人。自分の世界を持って人。いまはやりの新人類と呼ばれる人たちのようにウケを狙わない。マスコミや奇抜さとは無縁でありながら時代にとらわれることなく、おおらかに自分の世界に生きている人こそ、私にとっての新人類ですね。芸大の漆学科の学生が、いまお話しした人たちなんです。誰かが、いつか認めてくれるかなんて、いっさい気にしないで、ただ黙々と自分のやりたいことに打ちこんでいる姿は、ちょっと感動的です。人間が人間にときめきを覚えるときって、その人のエネ

たままでは、何か新しいことをやろうとすると、必ず評価されるか、されないか



●写真：ホテルグランドパレスにて

ルギーが、自分に放射されていて、その人の世界に誘惑されていく寸前。そんなときですよ、きっと。

■ここまで彼女は一気にしゃべった。語りはじめに從って、目の輝きがましてくる。声はどちらかというと小さい。だが決して聞きとりにくいわけではない。むしろ明瞭だ。熱い内容は静かに語るほど説得力がましてくる。では、若者のエネルギーや表現パワーの関係を時代性のかでとらえると、どうなるかを質問してみた。

■いま日本は平和ですよ。その裏では何か怪しいことがたくさん起こっている。ほとんどの人は満ちたりた気分になっている。でも胃袋は満腹でも、精神の空腹は誰にでもあると思う。未来や自分が不確かな時代。世界の平和と戦争。いろいろな状況があるけれど、オイルショックから立ち直った日本の現象のひとつに、若い人のエネルギーを、大人たちがうまくおさえこんできたことがあると思います。二度とシラケ世代を創らないために、母親の意識を変えてしまったというふうに……。若い人はそうした抑圧をほらおうとしても、エネルギーのはけ口が見つからないまま老成しているとか言われてしまっている。

それは70年代に大人たちが、若者のエネルギーをどこへ発散させるか、わからないように、操作した結果でもあるんですよ。それが密室へ閉じこめるとかの方法ならば、まだしも希望は持てたけれど、生活をリッチにしたりさせて、まわりを見えなくしたんです。人間が、たっぷりパワーを持ってエネルギーを発散できる無垢な時期に、それをできない状況を創った。だからいま最も大切なことは空虚な老成ではなく、自分の目で、時代や状況を検証していくこと。それができる人が、私はやがてとても魅力的な人間にな

っていくと思うし、国際人として、より大きなビジネスに取り組んでいける基礎だと思えます。他人の力に頼らず、利用されず、まず自分自身が表現し、実行することです。

■43億の人間が貼りついている地球のなかで、国際人といってみても、たかだか43億のひとりにはすぎないんですね。それと英語がしゃべれないから、国際人ではないというバカな考えはやめて、自分という人間は、どんな世界に生きていて、何を考えているかを確認することが大切です。なにを美しいと思うかとか、なにを素敵と感じるか。まず自分を知ることです。自分という人間が存在して、その次に国がある。自分がないければ国も世界も何も存在しないのと同じですからね。そして自分の言葉で、自分を表現したり、意見を主張することができるのが国際人だと思えます。アメリカへ行つて、しどろもどろのビジネス英語を使うよりも、自分のことばで自分を表現できる人のほうが、すてきですよ。

